

希望郷いわて国体リハーサル大会報告

6月11日、12日の2日間、盛岡市の県営運動公園において、本年10月に開催される希望郷いわて国体山岳競技会のリハーサル大会として「スポーツクライミング第30回ジャパンカップリード競技岩手大会」「希望郷いわて国体記念ボルダリング大会」が開催されました。競技に先立ちリハーサル大会の開始式がリード競技のアイソレーションルームで、リード・ボルダリング競技に出場する女子選手の参加を得て開会しました。

「ジャパンカップリード競技」には、北は北海道から南は沖縄までの全国31都道府県から、2016リード日本代表選手内定している8名を含む、男子86名、女子52名、計138名が出場しました。

岩手のリード壁は、全国でも珍しい上下可動壁で下部は最大135度まで引き上げることができる最新式。

1日目の男女予選は下部が最大傾斜の135度に設定された壁を、国体方式で左右同一ルートを同時スタートで行われました。



女子予選は2名が完登、25位タイが4名で28名が準決勝に。男子予選は17名が完登、23位タイが4名で

26名が決勝へ進んだ。

2日目の準決勝は男女とも下部の傾斜を127度に設定された壁を決勝進出の8位以内を目指し激戦が繰り広げられました。女子は予選の上位選手が順当に8名が決勝進出を決め、男子は決勝進出者8名のうち予選完登者7名。あと一手で決勝進出を逃した予選完登者6名が悔し涙を飲むこととなった。

女子決勝は、森秋彩が昨年のジャパンカップみなべ大会2位からの初優勝。2位には小武芽生、3位には伊藤ふたばが昨年4位から初の表彰台となった

男子決勝は、予選・準決勝で完登している是永敬一郎が初優勝。2位には中野稔が昨年に引き続き入賞。

中上太人が初の決勝進出で見事3位に入った。

今大会のルートは傾斜が135度という壁を、一般観客からは「どうしてあんな急傾斜を登れるの?」という驚きの中、夢と感動を与えてくれた選手の素晴らしいパフォーマンスに感謝し、国際大会での活躍と、本大会でもまた素晴らしいパフォーマンスに期待したい。

「希望郷いわて国体記念ボルダリング大会」は2名1チームの国体方式で2日間の日程で開催されました。参加チームは東北六県のほか、茨城・東京・愛知・岐阜・京都の11都府県から男子21チーム、女子10チーム計31チームが出場しました。



1日目 男女予選が行われ、それぞれ8チームが決勝へ進出。2日目、女子決勝は山形県チームが優勝、

2位・3位には福島県チームが入賞した。1位と3位は10歳から13歳のジュニアであった。

男子決勝は1位は、愛知県チーム、2位・3位はボーナスのアテンプト差で2位青森、3位東京のチームが入賞しました。

ボルダリング大会を振り返ってみて、リハーサル大会とはいえ国体の壁でA級ルートセッターがセットすることを考えると、選手強化のためにも参加チームが増え盛り上がる大会になればと思いました。

2日間のリハーサル大会リードの運営については、

①ジャパンカップと国体では競技運営に違いがあることは分かっていたが、やはり競技役員には戸惑いがあった。

②国体は団体戦、ジャパンカップは個人戦そして競技は国体規則に縛られないことを理解して競技運の周知徹底を図る必要があった。

例えば、国体の集計プログラムを使用した集計のため枝番のある選手番号で運用したこともあり、そのこ

とで競技役員と選手の間に意識の違いがあったと思われる。③メディアの対応についても競技役員に周知徹底が図れなかったことで誤解をまねいたと思われる。

ボルダリングの運営については、①② 日間にわたり競技したことにより、予選と決勝の競技進行の違いを確認することができた。



伊藤ふたば選手

②本番に向け、係業務の再点検及び連携をしっかりと改善すべきことが洗い出されたので万全を期したい。リードも同様である。

最後に、大会準備から天気が心配されましたが、大会期間中は何とか天気持ってくれ、翌日から岩手も梅雨入りでホッとしたところ。また、た

またま、リード会場を訪れていた若いご家族連れの奥さんが旦那さんに「スポーツクライミングって、かっこいいね。こんな競技だとは知らなかった。やってみたいね」と。

リハ大会の競技運営にご尽力いただきました日本山岳協会、盛岡市実行委員会、そして岩手県山岳協会の競技役員の皆様には感謝を申し上げます。

リードジャパンカップいわて大会県勢の活躍

順位	男子(86名)	順位	女子(52名)
10位	山内 響(盛南)	3位	伊藤ふたば(松園中)
21位	藤原祐樹(岩手ク)	22位	金沢千怜(岩手ク)
23位	中島大智(盛南)	48位	立花里美(岩手ク)
42位	室塚彬(岩手缶)	50位	田中里旺(盛一)
44位	昆脩太(スポ振)		
58位	坂本祐樹(黒 ob)		
72位	佐々木建彰(岩高)		

国体記念ボルダリング大会県勢の成績

順位	男子(86名)	順位	女子(52名)
8位	石嶋魁人(盛南)	5位	吉田智子(大迫)
	千葉雅大(盛南)		吉田朱羽(誠桜)
		8位	小川 空(ジュニア)
			藤原 杏(ジュニア)

平成28年度残雪期講習会・指導員研修会報告

日程：平成28年5月21日～22日

場所：国見温泉森山荘宿泊 秋田駒ヶ岳

参加者：諏訪木秀夫・土井祐之・及川真紀・駒込幸夫(北上山岳会) 田所一志・長畑重広・渡邊美智子・松山貴章・千葉崇文(岩手アルペンローズ山岳会) 9名(森山荘参加) 古澤勝三・千葉富夫・西舘正治・桑原清孝・瀬川幸夫 武田勝栄・佐藤誠 7名

22日朝5時に9名は国見温泉を出発した。今年は積雪が少なく、ムーミン谷に入るまでは雪がほとんどなかった。ムーミン谷の真ん中あたりでアックス・アイゼン・ハーネスを装着して講習を行う。講習内容は雪上歩行と雪稜クライミング。同時登攀は以前は長さ調整の為にループ状にして手に携行していたが、今では滑落距離が延びるので手にループは持たずロープを繋いでいる同士が常にロープを張った状態で歩行することを強調した。クライマー同士の距離間隔は15～20m程度で残りのロープは肩にコイルを巻いて携行するが、慣れていないとコイルが巻けない。その人が扱いやすい巻き方でなければならぬ。パートナーがクレパスにフォールした場合の自己脱出方法を展示する。

雪稜クライミングの方法を講習後、男岳へと向かう。空洞だらけで岩壁との間にシェルルトが出てくる。気温も上がって来たせいか、対面側の沢から雪が緩んで岩がゴロゴロと転がっている音が聞こえる。

天気は良いが気分は良くない。

最近、新しい山岳技術と装備がどんどん出てくるので技術を更新して身体で覚えて自分自身の技術にして欲しい。

伊藤ふたば選手・畠山晃副理事長

(公財)岩手県体育協会栄光賞受賞

県体協が、全国優勝や国際大会で素晴らしい成績を上げた選手と指導者に贈る「栄光賞」を昨年のアジアユース大会でリード、ボルダリングで優勝した伊藤ふたば選手と指導にあたっている協会副理事長兼選手強化部長の畠山晃さんが受賞した。6月16日サンセール盛岡での表彰式では県体協会長でもある達増拓也知事から賞状とメダルが授与されました。伊藤選手には、今回の受賞を一つの通過点として、更に国際舞台を目指して精進して欲しいと思います。また、畠山さんには寝食を忘れての指導強化、大変ですが引き続きよろしくお願ひします。

東北六県岳連(協会)連絡協議会報告

平成28年度東北六県山岳連盟(協会)連絡協議会が、5月13日(土)と14日(日)の二日間、福島県

新野地温泉で開催され、各岳連（協会）会長、理事長等 22 名が出席。県山協からは高橋会長、吉田副会長、小山理事長、佐藤指導部長の 4 名が出席。

1 協議概要

- (1) 山の日制定記念事業の各県の対応について
各県で、具体的事業を策定する。日山協から一県あたり 100,000 円の助成あり。
- (2) スポーツクライミングの組織化(岳連・協会加盟)とジムの組織化について
民間ジム 青森(3)、岩手(3)、秋田(1)、宮城(5) 山形(2)、福島(7)
- (3) 日山協会長諮問事項への答申内容への対応について、高橋副会長から日山協の状況報告。

2 報告

- (1) 希望郷いわて国体準備状況及びリハーサル大会の開催について(岩手山協)
10月7日～9日まで 盛岡市
- (2) 東北総体開催準備状況について(青森岳連)
7月22日(金)～24日(日)まで
青森県階上町
- (3) (公社) 日本山岳協会平成 28 年度第 1 回理事会報告・平成 27 年 5 月 13 日 (土)
- (4) (公社) 日本山岳協会の動向について
- (5) 山岳遭難事故防止について

2020 年東京五輪スポーツクライミングと日山協について

昨年 9 月 28 日、「2020 年東京五輪組織委員会」は、東京五輪の追加種目候補に、野球・ソフトボール、空手、ローラースポーツのスケートボード、サーフィンなど 5 競技 18 種目のうちに、スポーツクライミングが追加種目にノミネートされました。あとは、この夏、リオデジャネイロで開催される I O C 総会での最終決定を待つばかりです。スポーツクライミングが、東京五輪の追加競技になれば、大変喜ばしいことであり、日本山岳協会としても、国の内外に存在感をアピールできます。しかし、現在の組織体制では対応が困難であり、新たな組織づくりとか、組織の再編をしなければなりません。そこで、昨年 11 月、「会長諮問委員会」を立ち上げ、諮問委員会に次の 3 項目を諮問しました。

(1) スポーツクライミングの五輪競技種目化に伴う中央競技団体の在り方と組織について、(2) スポーツクライミングを統轄する NF の名称について、(3) スポーツクライミングの広報強化について、そして、去る 4 月 21 日、諮問委員会から答申をうけました。答

申書の要旨は、(1) 統轄団体の名称と競技名称が同一であること。答申には「日本山岳・スポーツクライミング協会」とされている。(2) スポーツクライミングに特化した独自性の高い事業部等を設けて運営を行う。

(3) 専門知識を持ち、実務に秀でた人材を登用した広報戦略の強化。等について、今後どのように具体化していくのか、また、その方向性と目標設定についてお諮りするものです。本協会としましては、これらの答申を重く受け止め、実行可能なものから着手してまいりたいと考えております。具体的には、本年 8 月 4 日の I O C 総会でスポーツクライミングが正式に決定されるのを待って動き出したいと思っております。それまでは、各都道府県山岳連盟（協会）、全国高等学校体育連盟登山専門部をはじめ関係諸団体等の皆様にご理解が得られるように良く説明し、粛々と準備を推し進めていきたいと思っております。なお、五輪競技の正式参入が決まりますれば、臨時理事会、臨時総会を開催して、平成 28 年度内に実行計画を策定したいと思います。

(日山協 5/14 第 1 回理事会)

平成 28 年度 (公社) 日山協定時総会報告

公益社団法人日本山岳協会平成 28 年度定時総会は、5 月 29 日(日)10 時 30 分～14 時 15 分、岸記念体育会館で開催されました。定数 60 名(定足数 30 名)出席者 57 名、委任 3 名合計 60 名

本県からは、日山協副会長でもある高橋時夫会長、が出席しました。

会議に先立ち八木原会長より、「尾瀬の富士見小屋がクローズとなった。尾瀬であっても人気のないコースの山小屋は淘汰される。都岳連も大阪府岳連も加盟団体が最盛期の半分まで減少している。労山も 2 万人を切り、日本山岳会も 5 千人を切った。この登山界の現状を直視しなければならない。群馬県では 6 つしかないクライミングジムのオーナーに集まって貰って、連携していくことになった。また、岳連、労山、JAC 群馬支部が集まって山岳団体連絡協議会を立ち上げた。先ず岳連が声がけて、積極的に動かなければ前には進めない。」と挨拶があった。

議事は、議案第 1 号 平成 27 年度事業報告については、原案の通り承認可決された。議案第 2 号 平成 27 年度収支決算報告及び監事監査報告については、補正予算を 3 回行ったとのことであるが、それはどの事業か？ また、旅費交通費、諸謝金の内訳

を知りたい。委託費は昨年比べて多いようだが、何が増えたのか、競技会運営と競技力向上であるが、大会ごとの内訳を知りたいと質問に、補正予算の件は、年度当初に選手派遣などの事業がよく固まっていなかったために、世界ユース選手権に総勢 36 人を派遣して予算が膨らんだような事業を第 1 次で補正した。また、昨年 9 月の五輪競技化の推薦を受けてからスポーツクライミングを取り巻く環境が大きく変わった。それに伴い本年 1 月から 12 月まで博報堂と主催競技大会の契約を結んだ。5 大会で総額 4800 万円である。それにより 27 年度は 800 万円を協賛金として計上してある。従前ボルダリングジャパンカップはジムなどの商業施設を借りて総額 300 万程の予算で開催してきた。広告代理店が協賛会社を獲得してくると競技大会もそれなりに見栄え良く運営しなくてはならず、予算が膨らんだこと。諸謝金、委託費は競技会のルートセッターやスタッフの費用である。競技大会の規模増大に比例して予算も増えてきた。旅費交通費も予算の精度が低いと言われればその通りであるが、大会派遣の回数や人数が増えたことが原因である。例えば、世界ユースは総勢 36 人で 1317 万の費用がかかっている。役員旅費も膨らんだ。議案第 2 号は、異議なく承認可決された。

報告第 1 号の平成 28 年度事業計画及び予算についても、報告第 2 号 平成 27 年度山岳共済会事業報告及び収支決算報告について内藤順造監事より監査報告及び監事所見が報告された。

(3) 会長諮問委員会答申を受けて、資料に基づき説明を行った。質問は、この問題は大きい。歴史と伝統のある名前を変えるには大きな決断があったと思う。尾形副会長より、五輪種目化を前提に諮問委員会を設置した。日山協は 3 つの IF(International Federation)/世界連盟に入っている。

IFSC, ISMF, UIAA である。3 つに加盟している NF は珍しい。我々の様な競技団体、マルチフェデレーションは東アジアには多くある。大韓山岳連盟、中国登山協会、インド登山財団、パキスタン山岳会などである。その名称からは競技種目が見えてこないのを入れてほしいというのが IFSC 会長のオファーである。事業の取り組みも含めて求められている。前回の諮問委員会(日山協の今後の在り方)と違い、11 月に会長が諮問したのは、直近の 2020 年東京五輪に向けてスポーツクライミングを統括する中央

競技団体としてどんな組織体制がよいか、どんな名前がよいか、広報戦略は、というものである。限定した審議事項とした。定款では「登山と山岳スポーツ」の括りにしていた。

9. その他

(1) 第 55 回全日本登山大会・島根大会について期日は 11 月 4 日(金)～6 日(日)である。募集は 200 名。(2) 祝日「山の日」記念事業についての説明を行った。(3) 山のグレーディング及び登山届について説明があった。(4) 長野県・登山安全条例について 28 年 7 月から施行される長野県登山条例について説明があった。本木顧問より女性の進出をもっと望むとのこと。國松副会長から、一番の課題は答申に対して、各岳連・協会がどう受け止めるかである。今後の日山協のあるべき姿を確立したい。ということで挨拶を行い閉会となった。

平成 28 年度県高校総体登山競技会開催

女子 盛岡一高 4 年連続・男子 黒沢尻工業

4 年ぶり優勝・岡山インターハイ出場権獲得!

今年で第 68 回(登山競技は、57 回)を数える平成 28 年度岩手県高等学校総合体育大会登山競技は、県高体連登山専門部(部長 盛岡南高校岩澤健二校長・委員長 盛岡一高校 佐藤幸久先生)主管で 6 月 3 日(金)から 6 月 5 日(日)八幡平市松川温泉キャンプ場に大会本部を置き源太ヶ岳、大深岳、三ツ石山連山の裏岩手連峰で開催された。今年の大会には、男子 14 チーム、女子 5 チームが出場。大会期間中は天候にも恵まれ、一部稜線に残雪の残るなか競技が展開された。初日は、肌寒いなか松川温泉キャンプ場で開会式、岩澤部長の挨拶、高橋県山岳協会長、遠藤八幡平市教育長の激励、島澤秀審判長の注意事項等のと競技に入った。

さっそく、回復傾向の天候のなか、全装備行動で体力審査が行われた。二日目の 4 日は、午前 6 時競技開始。新緑の中での行動、源太ヶ岳から大深岳、三ツ石山間で体力、チームワーク、自然観察等の審査が、到着後は、装備点検、幕営技術等の審査が行われた。

第 3 日目は、閉会式で成績発表と表彰式が行われた。結果は、次のとおり。

男子団体 1 位 黒沢尻工業(高橋宇夢・佐藤励人・小野雄太・重田鈴之介)95.6 点、2 位 盛岡工業 94.8 点、3 位 岩手高校 94.6 点。

女子団体 1位 盛岡第一(近谷岬・山村あゆ・熊谷斗子・須原麻衣)96.6点、2位 盛岡南 90.6点、3位 平館 78.5点

高校総体登山競技は、4人のチームワークのもと体力、計画書、天気図、幕営技術、観察、読図、歩行技術、救急対応等体力、知力、気力のまさに安全登山そのものを総合的に競う競技です。

優勝した男子 黒沢尻工業高校と女子の盛岡第一高校は、8月に岡山県蒜山で開催される全国高等学校登山大会に本県代表として出場します。皆さんの応援をお願いします

「2016 岩手山ボッカ大将」結果報告

6月18日(土)に開催された「2016ボッカ大将」結果報告です。

恒例行事の岩手山八合目避難小屋への荷上げ(ボッカ大将)が加盟各団体の多くの岳人と、高校生の参加は初めてですが、盛岡南高校の登山部(校長先生以下13名参加)の協力のもと無事終了いたしました。当日は昨年と違い天候にも恵まれ登山日和の天気だったと思います。また、当日はテレビ岩手と岩手日報も取材に訪れTV放映や、新聞紙上を賑わしました。参加いただきました岳人各位に感謝いたします。夕刻より高橋会長の挨拶ボッカ大将等の顕賞後、武田副会長の乾杯の音頭で交流会が始まり、時間の許す限りの中で行われ、岳人の交流がより深まったと思っております。

翌10日は朝食後、小屋清掃・トイレ清掃・毛布干し等を手伝っていただき、三々五々解散となりました。有志で転んでいたベンチの修理も行いました。

また、18日当日荷上げ後、都合で下山した岳人もおり、改めてお礼を申し上げます。次回は是非交流会に参加して交流を深めていただきたいと思います。

ボッカの結果等を以下に記載いたします。

一般男子

- 1位 渡辺良平 49.2kg 翌檜山岳会
2回目 20kg
2位 駒込幸夫 41.0kg 北上山岳会
3位 鈴木 清 40.0kg 巖鷲山岳会
(昨年4位 33.5kg)

高校生男子

- 1位 館岡瑛 33.4kg 盛岡南
2位 井上玄大 33.2kg 盛岡南

3位 松峰 快成 盛岡南 21.3kg

一般女子

- 1位 渡邊美智子 34.0kg アルペンローズ
2位 橘 澄江 23.0kg 矢巾山好会
(昨年2位 18.6kg)
3位 佐藤弘子 18.0kg 巖鷲山岳会
(昨年3位 15.3kg)
及川真紀 18.0kg 北上山岳会

高校生女子

- 1位 高橋空良 盛岡南 17.1kg
2位 鈴木一実 盛岡南 16.2kg
3位 赤間海紗綺 盛岡南 14.1kg

今年度の荷上げ品の総重量(個人装備含)は1,191.60kg(昨年度1,101.48kg)で、一人平均19,86kg(昨年度20,03kg)でした。

加盟団体参加人員(協会役員等は所属団体を含む)

盛岡南高校 13名 巖鷲山岳会 12名
矢巾山好会 10名、滝沢市山岳協会 6名
盛岡RCC 5名 アルペンローズ山岳会

6名、北上山岳会 3名 翌檜山岳会 2名
都南山岳会 1名 盛岡山想会 1名 玉山区

1名 総参加人員 60名(昨年度55名)
男43名 女17名(昨年度男43名 女12名)

男 942.6kg 平均 21.92kg

(昨年度950.08kg 平均22.00kg)

女 249.0kg 平均 14.65kg

(昨年度151.40kg 平均12.62kg)

あらためて山岳協会加盟各団体の結束力に感謝し、お礼を申し上げます。

国民の祝日「山の日」制定記念イベント申込等の取扱いについて

・山の選定等

- ① 登山対象とする山の選定及び登山形態は、各加



盟団体に一任しますが、一団体一山で登る山が重ならないように加盟団体間で調整して下さ

い。

平成28年度 岩手県山岳協会発行の加盟団

体・役員名簿等を活用するか、記念事業事務局に確認してください。

事務局 植田 瑞穂 〒020-0032 盛岡市夕顔瀬町 14-17-308

メール ji7siq2038ueta@coda.ocn.ne.jp

TEL 019-623-8075(FAX 同)

090-7662-8416

(高校山岳部は調整不要)

- ② 8月11日の登頂は当日の、登頂が確認できるように(例として当日の新聞の日付を入れて全員の写真を撮り、当日中に事務局までメール等で写真を送る等)してください。
 - ・実施報告・問合せ
- ③ 実施にあたっては、登山普及部で作成したペナントに登頂月日を記入し登山開始時から途中や頂上で写した写真(事務局のPCメールアドレス宛又はSDカードで提出)、ペナント(後日返します)、報告書(団体の事務局にはすでに発送済)、振込先銀行等の口座番号等を記念事業事務局まで送ってください。(報告書はメール等で実施後1か月以内に送ってください)
- ④ 助成金は、報告書の提出を待って所定の口座に送金します。
- ⑤ ペナントと必要によりSDカードを事務局から送りますので、事務局まで事前に申し込んでください。(加盟団体が準備したSDカードは複写後返納します)
- ⑥ 申込者は基本的に各団体の事務局(発送の住所が分かる為)か代表者
高等学校山岳部は顧問等(山岳部に関係する先生)が申込こと。

7月6日現在申込済山岳会

○一般山岳会・大学山岳部

- ・巖鷲山岳会 6/19・8/11 岩手山 5名
- ・玉山会 7/5 7/9 岩洞湖 相ノ山 5名
- ・滝沢市山岳協会 6/19・8/11 鞍掛山 5名
- ・都南山岳会 5/28・8/11 大ケ生黒森山 5名/

・矢巾山好会 6/12・8/11 東根山 5名

その他、不明な点は事務局まで連絡ください。

県自然保護課より「ツキノワグマの出没警報」
(資料より一部抜粋)

県では、本年3月に「ツキノワグマに関する注意報」を発表しておりますが、本年度は4~6月(1、

068件)の出没件数はここ数年間で最も多くなっており、即ち7件9名の人身被害が発生しています。

夏場にかけて、さらにクマの出没が多くなり、人身被害の増加が見込まれるため、県民の皆様、より一層の注意喚起を行い、被害の未然防止対策について周知する必要があることから、岩手県全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。被害にあわないための予防策の例

山林

・複数人でまとまって行動し、鈴やラジオで音を出しながら、自分の存在をクマにアピールする。



・山菜採りやキノコ採りでは、ラジオで音を出す
とと

八幡平の子クマ

もに、クマ撃退スプレーの携帯を心がける。

- ・人里・農地など 廃棄野菜や生ごみなどクマの餌となる誘引物を放置しないようにする。
- ・岩手山八合目避難小屋などの水場で、生ごみや残飯等クマ等の餌となる誘引物を不法投棄すると、これ

八幡平の子クマ

らの匂いを嗅いでクマ等が近づき、人の匂いに慣れ、人に対する緊張感がなくなり、頻繁に出没することとなります。ごみ等捨てないで下さい。

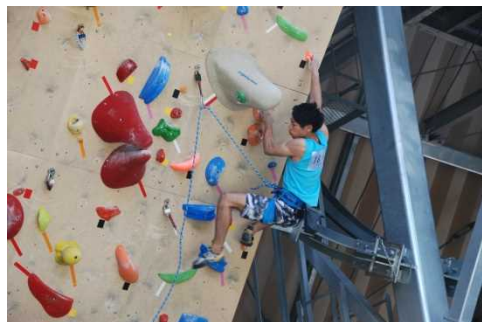
第2回日本ユース選手権ボルダリング

大会山内 響2位、伊藤ふたば3位

今年で二回目を迎えたこの大会は、中、高生にとっては、将来へ羽ばたく最初の関門。5月14日と15日鳥取県倉吉市で開催された大会では、男女別各4種別が行われ、男子ジュニアで山内響選手が2位、女子ユースBで伊藤ふたば選手が3位入賞を果たした。このほか、ユースAの中島大智は8位、女子ジュニアの山瀬奈々子選手が12位、ユースBの田中里旺選手が12位、吉田朱羽選手が27位を収めた。

第69回岩手県民体育大会山岳競技兼国体選手選考会

68回を数える県民体育大会山岳競技兼第9回国体日選手選考会が、6月25日(土)と26日(日)県営登攀施設で開催されました。大会には、一般部で競われる県体には男子5チーム、女子はオー



ブンも含め5チームが出場。今年は、国体競技役員に回る選

手も多く昨年を6チーム下回る出場となった。国体選手選考会には、高校生を中心とする少年男子34チーム、女子3チームがエントリーし二日間の熱戦が繰り広げられた。成績は次の通り。

ボルダリング競技

順位	1位	2位	3位
成年男子	北上山岳会 B 藤原祐樹 昆脩太	大迫山岳会B 室塚 彬 川本稔	北上山岳会A 長谷川健太 坂本裕樹
成年女子	大迫山岳会 A 金沢千怜 立花里美	大迫山岳会B 吉田智子 小笠原咲子	
少年男子	盛岡南高校 A 山内響 中島大智	岩手高校C 藤原晴樹 佐々木建彰	盛岡南高校B 石嶋魁人 千葉雅大
少年女子	盛岡第一高 校A 近谷岬 越前谷花絃	盛岡第一高 校B 熊谷瑚斗子 山村あゆ	盛岡農高校 工藤亜胡 村山夏恋

リード競技

順位	1位	2位	3位
成年男子	北上山岳会 B 藤原祐樹 昆脩太	大迫山岳会B 室塚 彬 川本稔	北上山岳会A 長谷川健太 坂本裕樹
成年女子	大迫山岳会 A 金沢千怜 立花里美	大迫山岳会B 吉田智子 小笠原咲子	

少年男子	盛岡南高校 A 山内響 中島大智	盛岡南高校B 石嶋魁人 千葉雅大	岩手高校C 藤原晴樹 佐々木建彰
少年女子	盛岡第一高 校A 近谷岬 越前谷花絃	盛岡第一高 校B 熊谷瑚斗子 山村あゆ	盛岡農高校 工藤亜胡 村山夏恋

希望郷いわて国体選手・監督決定

県民体、国体選手選考会及びこれまでの大会実績に基づき7月23日(土)と24日(日)青森県階上町で開催される東北総体山岳競技と国体出場選手が決定しました。今年の国体は、開催地枠で全種別へ予選なく出場となりますが、東北総体では7連覇を目指して出場。10月7日から9日の本国体に向けて頑張っていきます。皆さんの応援をお願いします。

種別	監督	選手	選手
成年男子	畠山 晃 (古館小)	藤原祐樹 (岩手クライム)	昆修 太 (スポー振)
成年女子	長谷川健太 (予防医学)	金沢千怜 (岩手クライム)	立花里美 (岩手クライム)
少年男子	新田亮一 (岩手高)	山内 響 (盛岡南)	中島大智 (盛岡南)
少年女子	伊藤 圭 (盛岡市役所)	田中里旺 (盛岡一)	吉田翠羽 (盛岡誠桜)

希望郷いわて国体山岳競技協議運営協力金へのご協力ありがとうございます。

47年ぶりに岩手県で開催される二順目国体山岳競技の運営に際しまして、運営準備、会議等に係る費用について、加盟団体及び会員の皆様に3月から協力金をお願いしていました。その結果、6月30日現在、国体成功に向けて多くの皆様から

1,040,000円という多額のご芳志を頂くこととなり

ました。本当にご協力ありがとうございます。皆様から寄せられました応援を力に更に、準備に向けて頑張っていきたいと思っています。

○協力団体(順不同)

滝沢市山岳協会、翌檜山岳会、矢巾山好会、盛岡山岳会、ハイエストカンパニー、盛岡RCC、釜石山岳協会、福岡山好会、玉山会、早池峰山岳会、悠々山の会、巖鷲山岳会

○協力の協会役員、協会の皆様(順不同)

阿部 颯(もりおか山)、伊藤信男(アルペン)、竹田正(矢巾)、四戸寛次郎(RCC)、出堀宏明(山想会)、斉藤善也(水沢)、高橋和夫(盛岡)、滝田章(悠々)、松尾寿(翌檜)、矢羽々昭夫(盛岡)、中谷 充(岩手支部) 矢羽々文一郎(盛岡)、古澤勝三(悠々)、波岡浩(巖鷲)、佐藤安美(和賀)、村上良則(都南)、澤田精一(早池峰)、及川憲一(和賀)、土館正信(RCC)、三浦功(山想会)、森宗一(国見温泉)、澤村省三(盛岡)、谷藤孝市(盛岡)、熊谷浩志(盛岡)、菅野雅行(高体連)、小笠原重夫(RCC)、畠山征敏(悠々) 高橋時夫(翌檜)、千葉真英(高体連)、十二林良治(巖鷲)、遠藤敏英(矢巾山)、中島隆之(北上)、四戸岳也(滝沢)、鈴木主計(早池峰)、植田瑞穂(巖鷲)、土井祐之(北上)、佐藤誠(都南)、盛合敏男(福岡)、中村浩之(石鳥谷)、鬼川博昭(高体連)、角掛実(滝沢)、出堀宏明(特別寄付)(山想会)、遠藤政一(和賀)、小山勝稔(翌檜)、山口吉男(滝沢)、田老雄一(久慈)、佐藤 均(盛岡)、渡邊美智子(アルペン)、西館正治(アルペン)、岩澤健二(高体連)、村上伸男(翌檜)、長畑重弘(アルペン)、中村浩之(石鳥谷)、武田勝榮(巖鷲)、佐々木正彦(巖鷲)、吉田春彦(都南)、工藤洋司、(岩大)、千葉健吉(山想会)、千葉貴子(山想会)、小野寺修(高体連)、太野千恵子(RCC)、三浦拓男(J R盛岡)、藤原 裕(山想会)、杉山健太郎(悠々)、川村芳征(RCC)、星 晃(北上)、岩館常蔵(RCC)、立柳真示(翌檜)、佐々木忠夫(滝沢)、佐藤 均(都南)、工藤裕志(翌檜)、中道政春(翌檜)、渡辺正蔵(山想会)、川越鐵男(巖鷲)、工藤弘志(翌檜)、佐藤俊一(悠々)、国本旗男(山想会)、歳弘 康(裏岩手)

なお、協力金については、引続き受付ています。

日本の名峰 丹沢山・赤城山紀行

期日 5月26日(木)～29日(日)

5月26日(木) くもり～小雨

滝沢市役所から乗車の参加者 21 名が揃ったところで予定どおり 19:00 に出発。曇り空から少し小雨が落ちてきた。3日間の天気予報は前半が雨模様で少し心配な天気である。盛岡駅前のマリオスでは 12 名の乗車であるが、公共交通機関の時間の関係で予定より遅れている方もあり待ち時間でトイレ休憩や荷物整理等に利用。昨年までは見送りに来ていた岩手県山岳協会会長や普及部長も国体実行委員会のため見送りに来れなかった。盛岡駅前では予定より少し遅れて出発。盛

岡南 I C で一般道から高速道路へ、途中花巻南 I C で 2 名乗車し、北上・江釣子 I C で 3 名乗車と参加者が合流し、参加者 38 名全員が揃った所で開会行事を実施した。今回の山行についての説明とスタッフを紹介し一路神奈川県相模原市へ。東北自動車の仙台宮城 I C 付近の工事のため通行止めで一般道に降りなければならなくなるため、途中富谷 J C から仙台北部道路を通り常磐自動車道経由で南下することになった。途中寝ていたためか途中の状況はあまり記憶にない。

平成 28 年 5 月 27 日(金) 小雨～雨～くもり

3:00～4:00 海老名 S A で時間調整のため長めの休憩、朝食や昼食用のおにぎり等食糧等を購入。食堂で定食を食べた参加者もいた。4:10 首都圏中央連絡道相模原 I C で高速道路を降り一般道へ。4:30～5:25 途中のコンビニで食糧購入。登山前の最後のトイレのため参加者が交代で用足しのため時間がかかる。

5:47 相模原市平丸登山口手前の広い場所でバスから降り雨の中を登山準備。ヒル予防の虫除け用のスプレーを靴やスパッツにかけてもらう。6:01 平丸登山口(424m)から入山。登山口は旧国道のカーブの所から山に入る所であった。最初はなだらかの山道であったが、傾斜がきつくなりジグザグの登山道になった。登山道は大きな木の間の道であり通常でも湿気がありそうな登山道で、今日は雨のためなおさらのことと思われる。ヒルがいるというのうなずける。

6:35 稜線に出る。

8:25 平丸分岐(1,150m) 通過。雨は相変わらずしとしと降っている。

8:50 大平分岐～9:35 八丁坂ノ頭(1,343m) 青根分岐(姫次側)～10:10 姫次～10:25 原小屋平～10:40 地蔵平～12:00 蛭ヶ岳(1,673m) 着。蛭ヶ岳は丹沢山系最高峰であり神奈川県最高峰でもあるが霧雨とガスのため周りの景色が見えない。12:40 蛭ヶ岳出発。

12:55 鞍部～13:33 不動ノ峰着。小休止。13:40 不動ノ峰出発～14:00 鞍部～14:23 丹沢山(1,567m) 着小休止。14:37 丹沢山出発～15:05 鞍部～15:12 日高～15:25 鞍部。小休止。15:53 出発。

15:50 塔ノ岳(1,491m) 着。ここにある尊仏山荘が今日宿泊する山小屋でようやくザックを下してゆつくりできる。約 10 時間。寝不足の体で皆さん良く歩いたものである。山男・山女は山小屋で早速乾杯のしていた。

丹沢山を過ぎるとだんだんにガスが晴れてきて周りが見えてきた。塔ノ岳に来る途中で 2 組のパ

トロール隊とすれ違う。行方不明の人を探している違う隊の山岳パトロールということであった。

夕食は人数が多いので2回に分けての食事となる。(一般の宿泊者は3回目となったようである。)メニューはカレーで、お変わり自由とのことであった。この山小屋は山頂にあるため水が貴重で、水が欲しい人はペットボトルの水を購入することになる。水場はこの下にあり、歩くと下山で30分ほどかかるということであった。夕食後も乾杯は続いていた。外では、富士山が一部見えてきた。20時消灯。布団は1人1畳に敷布団と掛布団と枕で。ゆっくり眠ることができた。荷物は廊下に置くということだった。

山小屋の大將から聞いたところによると、この山小屋は沢山のボランティアによって支えられているということであった。特に丹沢の世界チャンピオンといわれる大井町在住の畠山良巳さん(岩手県出身)は今日5月27日(金)で通算5,315回目の登頂ということで、本年は132回めの登頂ということで、朝8時にガソリンとおでん30kgを荷揚げし下山していったということであった。

岩手出身者の活躍を聞き、うれしい気持ちになる。
平成28年5月28日(土) 晴れ

早めに目が覚め窓越しに外を見るとうっすらと赤い筋が見えてきたので写真に写し、外に出てご来光を待ちかねていたが、小屋から見ていたくらいは赤くなることはなかった。ご来光を拝めなかったのは残念であったが今日の天気はよさそうなので安心した。

5:00 朝食。朝食後、下山の準備をし塔ノ岳の360度の展望を楽しむ。富士山がきれいに見える。

5:50 山荘を出て下山となる。相変わらず富士山がきれいに見える。出発前に塔ノ岳山頂で記念写真。



塔ノ岳(富士山をバックに)

6:64 花立山荘通過。7:05 堀山の家(950m)通過。8:59 大倉登山口(290m)到着。

途中登山者が沢山おり、ボランティアで荷揚げしている方もいた。最初の方は背負子でビールをケースで背負っていた。山岳部の大学生は8人くらいでバラバラに登っており、中身を聞くと米ということで、50kgの重さということであった。下の方にいた学生の二人連れは一人は大変そうなので連れの上級生らしき人に聞いたら新人の1年生ということで、重さは40kgということであった。先ほど宿泊した尊仏山荘はこのようなボランティアによって支えられているようであった。



尊仏山荘をバックに

8:59 大倉登山口(290m)に到着。昼食の弁当が届くまで時間があり。希望者を募って水無川にかかる「風の吊り橋」を渡り「県立山岳スポーツセンター」を見学。リードの壁面では神奈川岳連の方々が登攀訓練を行っていた。10:10 駐車場(大倉登山口)出発。秦野中井ICから圏央道・上信越道を通って富岡ICへ。13:10 富岡製糸場着。世界遺産である富岡製糸場をガイドの案内で見学した。見学者が多く、さすが世界遺産であると感じさせられた。

15:37 高崎ビューホテル到着。部屋に荷物を置き速風呂へ。部屋は個人ごとなのでゆったりくつろぐことができた。18:00 夕食(会食)はフルコースの料理と飲み放題で、風呂上がりののっさっぱりした体で楽しむ。参加者も飲んだり食べたり話したりと楽しい時間を過ごすことができたと思う。

平成28年5月29日(日) 晴れ

早めに目が覚めカーテンを開けると日が差していた。ホテルの窓からの久々のご来光(?)で、よく見えるロビーの非常口から朝日を写した。

5:15 朝食の弁当受取る。5:30 高崎ビューホテル出発。風呂にも入り一晩ホテルのベットでゆったりした

ためか参加者のすがすがしい顔が並んでいた。今日は朝から日も差して熱くなりそうな予感がした。

6:30 駒ヶ岳登山口の下側にある駐車場（大沼のそば）に到着。登山準備やトイレを済ませる。

6:45 駒ヶ岳登山口に向けて駐車場を1班から出発。

6:47 駒ヶ岳登山口（大洞登山口）(1,357m) から登山道に入る。登山道は乾いていて歩きやすい。傾斜があるためかジグザグに道が作られている。天気も良く暖かい。丹沢とは雲泥の差の天気である。

7:30 稜線に出る。富士山が小さく見える。

7:42 駒ヶ岳山 (1,685m) 山頂着。山頂からは展望が良いが、狭いため交代しながら写真を撮る。小休止。

7:50 駒ヶ岳山頂を出発～8:00 大ダルミ～8:33 稜線に出る。8:37 黒檜山 (1,828m) 山頂着。黒檜山は赤城山系の最高峰である。山頂は展望がきかないので展望台に移動する。展望台からはアルプスの山々がはるかかなたに見える。スマホを持っている方が山の方にスマホを向けると画像に園山の名前が表示なり最新の携帯機器やアプリのすごさに驚かされる。山頂での記念写真を撮る。



黒檜山(赤城山系最高峰)にて

9:20 黒檜山下山。下山は2班が先に下る。下山道は傾斜がきつく岩もあつたりして歩きごたえがある。途中展望の良い所があり大沼や湖畔の建物、赤城山神社が良く見える。周囲の山々もきれいに見える。

このコースは傾斜があるが、赤城山系最高峰の黒檜山に登るための最短ルートのためか、すれ違う登山者も多くなり、また、子供連れの登山者も多く見かけるようになる。

10:47 黒檜山登山口 (1,360m) 着。登山口はカーブの舗装道路に有り、結構通過する車両が多いの注意が必要である。11:00 バスの駐車場（駒ヶ岳登山口の

下側）まで移動。舗装路の沼の反対側にある赤城山神社のを見ながら行列を進める。空には珍しい「彩雲」が出ていた。11:40 駐車場に着くと先に歩いていたはずの2班の姿が無く、後ろから歩いてくる2班の方々が目に入る。早く降りた2班は赤城山神社に寄って来たとのこと。11:00 バスの駐車場（駒ヶ岳登山口の下側）まで移動。舗装路の沼の反対側にある赤城山神社のを見ながら行列を進める。空には珍しい「彩雲」が出ていた。11:50 駐車場を出発。12:10「道の駅ふじみ」着。ここは風呂がある道の駅であるので、昼食を取り、お土産を買うことになる。また、自動車道のSAではアルコール類は売っていないのでここで買うことになる。

13:18「道の駅ふじみ」を出発。風呂に入りさっぱりとし、お腹もいっぱいになり少し幸せな気分になる。

伊勢崎ICから北関東自動車道～東北自動車と北上し、途中長者が原SAで夕食。

20:03 北上・江釣子ICで3名下車。

20:12 花巻南ICで2名下車。盛岡南ICから一般道に入り、20:47 盛岡駅西口で13名下車。

21:12 滝沢市役所で20名が下車で無事解散となった。

参加者全員無事岩手に到着。本当にお疲れ様でした。

初日は天気に恵まれなかったが、参加者全員けがをすることもなく無事歩ききりうれしく思いました。

特にも初日の寝不足と雨天とヒルに見舞われながらの山行は大変だったと思うが、歩ききったことは自信になったことと思います。それは日頃のトレーニングの賜物とされます。今回の山行も、参加者全員満足のいく山行であったと思えます。

スタッフ 1班 L 田老雄一(GL兼)・SL 中村桂悦、2班 L 太野千枝子・SL 山口吉男、記録 盛合敏男

第2回東北高等学校登山大会で

男子盛岡工業、女子盛岡一高ともに優勝

7月1日から3日まで山形県で開催された第2回東北高等学校登山体育大会で、岩手県勢男女とも優勝に輝きました。昨年岩手山で第1回大会を開催した東北大会は、各県男女2チームが出場。来年インターハイの会場となる山形県で開催され、男子で盛岡工業高校がインターハイ出場を逃した悔しさをぶっつけみごと東北チャンピオンに。また女子では盛岡一高が昨年に続き2連覇を達成。岩手県勢のアベック優勝と成りました。

盛岡一高は、8月のインターハイで、なかなか難しいとされていますインターハイでの2連覇に挑みます。暑さに負けないで頑張ってください。

成績

男子 1位 盛岡工業(93.70)、2位 八戸工大(92.35)、3位 山形南(91.70)、4位 黒工(90.75)

女子 1位 盛岡一高(90.00)、2位 盛岡南(83.10)
3位 八戸高(82.90)、4位 仙台三桜(82.20)

協会指導部中島隆之常任理事、(公社)日本

山岳協会医科学委員会委員に就任

協会指導部常任理事の中島隆之さんが、日本登山医学会認定山岳医に合格。これを受けて、(公社)日本山岳協会の医科学委員会委員に就任しました。先生からは、登山に係わる医科学的な分野での指導とスポーツライミングの2020東京オリンピックに向けた選手強化と併せ、競技特性に応じた選手の傷害対策や体調管理、競技中の医務・救護など協力して頂くこととなります。今後本県のみならず広く、専門的見地での活躍を期待したいと思います。日山協には、既に高橋会長が副会長で、小山理事長が競技部競技運営委員として参画しています。ご苦労様です。

日山協山岳保険に入ろう

日山協の山岳保険は、年度中途でも加入できます。

多くの山岳保険がありますが、日山協の山岳保険は、登山ばかりではなく、日常生活でのケガも対象になります。また、ボルダリングやリード壁等でのロープを使用したクライミングもピクニックコースで比較的負担の少ない掛金での加入ができる等の利点もあります。また、万一の賠償責任保険も加味されています。更に、加入者数によって山岳協会への還付金等もあり、万一に備えての加入をお奨めします。**年の中途での加入もできます。**

詳しい内容を知りたい方及び加入希望の方は、県山岳協会事務局へお問い合わせ下さい

第3回理事会報告

平成28年5月11日(水)第3回常任理事会が会長等常任理事25名の出席のもと県協会議室で開催。次の内容について協議しました。

事務局関係

- ・平成28年度岩手県山岳協会常任理事の異動と役員名簿の確認について
指導部菊池真市理事が退任し村上伸男(翌檜)が新たに就任。
- ・平成28年度岩手県山岳協会功労者表彰の推薦について
- ・熊本県・大分県震災救援義援金について
- ・国体山岳競技特別会計第一次補正予算の承認について

事業部

- ・県民体育大会及び国体選手選考会実施細目について
- ・第68回県民体育大会山岳競技参加資格について文書で周知徹底を図る。
- ・トレイルランニングコース刈り払い・加盟団体交流会・トレイルランラング大会参加協力要請について

登山普及部関係

- ・岩手県山岳協会日本の名峰登山2015
- ・ジュニア登山教室の実施 岩手山8/5～6
- ・岩手山八合目避難小屋関係
- ・その他薪割等

選手強化部関係

- ・既設ボルダリング施設リニューアル完成 5/17、利用規程の検討整備しホームページで周知を図ることとする。
- ・クライミング認定会の開催
- ・国体ボルダリング施設完成 5/28マスコミ公開
- ・日本ユース選手権への選手派遣について

国体推進部関係

- ・希望郷いわて国体第1回基準会議結果
- ・リードジャパンカップ(リハーサル大会)の開催について

高体連関係

- ・第45回岩手県高等学校総合体育大会登山競技について 6月3日(金)～5日(日)
八幡平市 裏岩手連峰
- ・第2回東北高等学校登山大会の開催について 山形県

第4回理事会報告

平成28年6月8日(水)第4回常任理事会が会長等常任理事18名の出席のもと県協会議室で開催さ

れ、次の内容について協議しました。

事務局関係

- ・平成28年度岩手県山岳協会功労者表彰者の推薦について
- ・平成28年度日本体育協会公認指導員功労表彰候補者の推薦について
- ・平成28年度国体及び東北総体功労者表彰に係る候補者の推薦について
国体30年以上参加（畠山晃氏を推薦）

事業部

- ・第69回県民体育大会及び第8回国体選手選考会参加申込み報告
- ・2016鞍掛山トレイルランニング大会準備状況報告及びコース刈り払い作業について

指導部関係

- ・残雪期講習会実施状況報告 14名参加

登山普及部関係

- ・岩手県山岳協会日本の名峰登山2016報告
全員登頂
- ・岩手県火山防災会議報告
- ・八合目避難小屋準備状況報告

選手強化部

- ・日本ユース選手権出場報告
- ・登攀施設利用認定講習会実施告知 6/18、19

国体推進部

- ・リハーサル大会の開催について
6/5ポスター掲示、マスコミ回り
6/7 リハーサル大会進行係打合せ会議
競技役員 6/11 140名,お/12 130名
補助員岩高+誠桜17 ボラン11名

7月から8月の予定

- 7/1～3 第2回東北高等学校登山大会 山形
- 7/9 トレランコース刈り払い作業
- 7/9～10 夏休み親子クライミング・ボルダリング教室
- 7/14 日山協7月常務理事会
- 7/16 加盟団体交流会 相の沢キャンプ場
- 7/17 2016鞍掛山トレイルランニング大会
- 7/20 第2回評議員会
- 7/22～24 東北総合体育大会山岳競技 階上町
- 7/27 第5回常任理事会
- 8/3 第12回国体実行委員会
- 8/5-6 ジュニア登山教室in岩手山
- 8/7 岩登り講習会兼指導員研修会 川目

- 8/6～10 全国高等学校登山大会 岡山県蒜山
- 8/14～16 JOCジュニアオリンピック大会 富山
- 8/11 国民の祝日 山の日関連事業
- 8/下 高体連県外交流合宿
- 8/30 沢登り講習会兼指導員研修会 焼切沢
- 9/4 国体組み合わせ抽選会 東京

2016希望郷いわて国体山岳競技情報⑩

第2回基準会議及びリハーサル大会盛会裏

に終わる

秋の国体本番を迎えての日山協による第二回基準会議とリハーサル大会は、選手、役員、ボランティア等430人の皆さんの協力と好天にも恵まれ予定通り終了しました。特にジャパンカップリード競技いわて大会は、北海道、東北地方では初めての大会でもあり、緊張した中で競技と運営がおこなわれました。各競技役員にとって初体験でしたが、貴重な経験ともなりました。現在各競技役員から70項目ほどに亘るにわたる改善レポートを提出して頂いています。これらの検討家を行い本番に臨むこととなります。

県・盛岡市実行委員会・協会合同のリハーサル大会検討委員会開催

7月6日(水)午後7時から県体協会議室で合同のリハーサル大会反省会が開催されました。市実行委員会、協会から出された改善事項について改善確認しました。今後は、市実行委員会との連携強化を図るため、月2回以上の定期的な会議を持つことが確認されました。また、本大会に向けて各部署ごとの会議も随時開催することとしましたので、競技役員の皆様には引き続きよろしくお願ひします。なお、改善レポートについては、後日事務局より各競技役員に送付しますのでご確認ください。